研 究 結 果 報 告 書

研究結果

本研究は日本近代以降の教科書における日本人の記述の各側面の個別的考察を足場として、日本の国民形成における日本人像の位置づけ及び制限要素の側面から近代日本の根本的な特徴を解明することを行った。

まず、各期教科書の日本人記述について、頻数の最も多いのは、明治天皇、二宮金次郎、源義経、加藤清正、豊臣秀吉などであることがわかった。階層の面では最も多いのは武人（武士・軍人）で、次に多いのは皇室関係の人物(天皇、親王、皇后)で、家族国家倫理・皇室中心主義を国民に強調した時代特徴を窺うことができる。徳目の最も多い三位は「忠義」、「武勇」、「公益」であり、天皇に対する忠義と武勇は皇国国民の理想的な品質として強調されたことがわかった。それに、近代的な品質としての「博愛」、「公益」と前近代的な「孝行」、「報恩」は統一的に合理化されずに、そのまま混在されていることから、近代日本の道徳啓蒙の不徹底性がはっきり示されている。

一方、中国人の記述について、検定制度実施以前は相対的に多いが、国定教科書時期には急減し、しかも儒教的伝統的道徳の「孝行」、「忠義」、「信義」の模範として現れた古代中国人（閔損、諸葛亮、藺相如等）が最も多く、「進取」、「自立自営」などの近代的倫理を反映した例はないのである。また、各期教科書における中国についての記述も考察した結果、検定制以前主に漢詩・漢籍、遣唐使、印刷術、漢字などの歴史・文化的な交流に集中したのに対して、国定制以後、日清戦争、黄海の戦い、征清軍、義和団事変などをテーマとしての内容が急増し、中国は近代日本の対立的な存在として描かれた傾向がはっきり見られる。

それらの考察を通して、近代教科書における日本人像・中国人像は倫理思想・価値観の変動、教科書への国家制限、日本の国民意識及び日中関係などの要素によって制限されていたことがわかった。さらに、①天皇絶対主義国家への進路、②近代性と前近代性が両立、③「脱亜入欧」という近代化路線の確立と実行、④隣国中国・韓国の他者化・差異化により国民的優位性の完成・教化などの四つの近代日本の特徴がはっきり示されていると考えている。

今後の課題として、当時の日本人児童と民間人が教科書の記述に対する意識などの資料を発掘し、深く考察・分析を行おうと考えている。また、引き続き戦後の日本小学校教科書における日本人像・他国人像との比較研究を試みようとする。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表　(題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

① 「日本の近代小学校教科書における日本人と中国人」、譚建川、西南大学日本研究所「西南大学における日本研究」シンポジウム、2010年12月、中国重慶

② 「日本人の人間形成――近代教科書における人間像を中心に」、譚建川、四川外国語学院日本学シンポジウム、2011年3月、中国重慶

論文　(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

① 「想像と誤読：日本の近代小学校教科書における中国イメージ」、譚建川、『教育学報』2012年2月（予定）

② 「日本の近代教科書とアジア観の形成」、譚建川、『日本問題研究』2012年3月（予定）

書籍　(題名・著者名・出版社・発行時期等)

『社会変遷と国家形象：日本近代以来の教科書における人間像の考察』（仮）、譚建川、原稿作成中、2012年末発行予定